



県土木部技術管理室は5月31日、本年度スタートし浜田合庁で開催された「しまね・ハツ・建設ブランド」のプレゼンテーション

しまね・ハツ・建設ブランド

浜田でプレゼン開催

た「しまね・ハツ・建設ブランド」登録制度で、4月の1次選考会で選ばれた7件のうち「フィールド工事による実証実験が必要な3件のプレゼンテーション」を浜田合同庁舎で開催。県西部の各発注機関から関係者約50人が参加した。

①切梁受け金具「スルーサー」 ②三研クリエイト ③再生砕石RC-40(瓦、C-on) ④山建プラント(Anker) ⑤山建プラント(Anker) ⑥アンカー工法ラップ管使用長期保護材 ⑦(株)日本海技術コンサルタンツの3社が、新製品や新材料の特徴、従来との相違点など解説。1-2割程度の工期短縮と1-3割のコスト削減のほか、リサイクル性の向上、環境面への配慮など、それぞれのメリットについてアピールした。

参加者からは「廃瓦をリサイクルするということだ

県西部の発注機関から50人参加

が、江津地区の廃瓦を利用しているのか(再生砕石)「アンカー材について制限はあるのか」「人為的な空洞が残る弊害は(アンカー工法)などの質問があり、熱心に質疑応答が行われた。同プレゼンテーションは2日には、松江・出雲合同庁舎でも行われ、各発注機関から提出されたフィールド候補工事の中から、6月末の事前協議で対象工事を決定する。